

和 ~ な ご み ~

内科アレルギー部門での

アトピー性皮膚炎の治療



リハビリテーション科、
内科(アレルギー部門)
木俣 肇

は、「ステロイドフリーの治療」と呼んでいます。

内科でのアレルギーの診療を3月より開始させて頂いています。私は週3日間をリハビリテーション科、残りの3日間を内科アレルギー部門で勤務しております。リハビリテーション科では、チーム医療の素晴らしさを学んでおります。ここでは内科アレルギー部門について、これまでの私の治療の歴史も交えて紹介します。



アトピー性皮膚炎と「ステロイドフリーの治療」

内科アレルギー部門で診療している疾患は、アトピー性皮膚炎が最も多く、その他に、皮膚症状のない食物アレルギー、慢性尋麻疹、アレルギー性鼻炎、気管支喘息等です。

今回はアトピー性皮膚炎について述べます。私の治療のポイントとしてはステロイド剤を、軟膏も内服も一切使用しない事です。これを私

アトピー性皮膚炎の「原因と実際の治療」

過去、ステロイド軟膏は、アトピー性皮膚炎に1960年代から使用されてきて、多くの種類があります。しかし一部の皮膚科医達がステロイド軟膏でアトピー性皮膚炎は治癒しない事に気づき始め、1990年代にステロイド軟膏を使用しない治療を提唱しました。実際、これまで世界での大規模検定で、ステロイド軟膏でアトピー性皮膚炎が治癒したという、エビデンスの報告はありません。

一方私は、アレルギーを媒介する蛋白であるIgEという免疫グロブリンの産生機構を米国のUCLAで研究し、帰国後も京都大学でその研究を続けました。その過程でステロイドが実験的にも、またアトピー性皮膚炎の方にステロイド軟膏を塗布しても、IgE産生を増加させる事を見出し、海外の医学雑誌に報告しました。

IgEが増加すると、結果的にIgEが媒介するアレルギー性の炎症反応は増強します。そこで私はステロイドは、一過性には抗炎症効果でアトピー性皮膚炎を改善させるように見えるが、長期的にはIgE産生を増加させ、その結果として症状を増悪させるのではないかと考えました。

しかも、アトピー性皮膚炎は、多くの場合MRSAを含む黄色ブドウ球菌が感染していて、ステロイドでは当然その感染症は悪化しますし、黄色ブドウ球菌を撲滅することはできません。そこで「ステロイドフリーの治療」を科学的に行いました。

ステロイドの副作用

また、ステロイド軟膏は長期塗布して、中止すると症状が悪

化する「リバウンド」という現象もおこします。過去にはなかなか理解されませんでした。現在では世界的にもきちんと科学的に認められ、患者さん達でも常識として理解しております。

図1は成人アトピー性皮膚炎の方の背中です。この方はステロイド軟膏を10年数年間塗布しました。改善せず、「ステロイドフリーの治療」を希望して受診し、リバウンドも理解して、治療を始めました。しかし、ステロイド軟膏を中止すると、リバウンドを起し、全身から浸出液が出て来まし、皮膚症状も悪化し、MRSAと単純ヘルペスの感染症も合併しました。



図1. 成人アトピー性皮膚炎のリバウンド時。背中は浸出液も多く、傷も多く、一部に水疱を認めます。浸出液はMRSAの感染症ですが、水疱は単純ヘルペスの感染症(カポジ水痘様発疹症)でした。

見せて説明し、「リバウンドは必ず改善します」と励まし、不安を軽減しながら、治療を継続しました。MRSAやカポジ水痘様発疹症には、それぞれ効果のある抗生剤や抗ウイルス剤の内服を投与し、皮膚をネグミンで消毒して、抗菌軟膏を塗布し、その上をリン布という刺激を軽減する布でカバーする治療をしました。

図2は3ヶ月後の写真です。皮膚の赤みも傷も消え、色素沈着があるだけで、症状は著明に改善しています。その後、色素沈着も消失し、この方の10年間のアトピー性皮膚炎は、治癒しました。



図2. 成人アトピー性皮膚炎の3ヶ月後、改善時。背中は浸出液も無く、赤みも消えて、傷も無く、MRSAも単純ヘルペスも陰性化しています。全体に色素沈着がありますが、その後消失し、正常な皮膚に戻り、アトピー性皮膚炎は治癒しました。

「ステロイドフリーの治療」の難しさ

当科にはこのような方々が、全国から受診されます。実は、アトピー性皮膚炎に「ステロイドフリーの治療」をしている医師は、全国で数10名しかいません。従って、その治療を求めて、他府県からも患者さんが多数受診されます。

協和会病院でも、3月の外来日のある土曜日は、午前9時からの外来が午後3時に終わり、スタッフの方々にはお手数をおかけしました。現在は、患者さん達はステロイドの無効性を自分の体験から

未来は免疫抑制剤を使用しない治療を

理解できていますが、まだまだ医療関係者には理解は十分ではありません。あるステロイド軟膏が無効なら、より強いステロイド軟膏に処方されます。従って中止時には、より強いリバウンドが出ます。それがダメなら内服のステロイドを処方される場合もあります。内服のステロイドを10年間以上も服用されている患者さん達も受診し、そういう場合は内服ステロイドを漸減して治療し、それでも強いリバウンドは起こりましたが、最後は治癒しました。

また、ステロイド軟膏の代わりに、プロトピック軟膏を処方される医師もいます。しかし、これは免疫抑制効果がステロイド以上に強い軟膏です。実際、既にプロトピック軟膏塗布による癌関連疾患発症の報告が、多くの海外論文でありますので、その危険性を熟知すべきです。

未来には、複雑なアトピー性皮膚炎の原因が解明され、早期に予防をして発症を防ぎ、発症したら「免疫抑制剤フリーの治療」で治癒させる、という医療の進歩を願います。

第6回「介楽」のご案内

日時：5月19日(土)午後1時30分～2時30分

場所：当院2階 理学療法室

今回は「緊急な対応」について訪問看護の現状からと、AED講習(見学のみ)を開催します。昨年の1月に第1回介護講座を開催、早6回目の開催となりました。今回は在宅療養で介護をしていて不安なこと、相談、聞きたいけど機会がない、など日ごろの思いを話してみませんか!!

吹田市の65歳以上は、吹田市人口の20.0%です。23.0%になると超高齢化社会と言われています。これから65歳以上人口は増える傾向です。益々在宅医療が推進される事と思います。「在宅での不安やこんな事が起こったらどうしよう?」などの質問や意見交換が出来ればと思います。そして、AEDインストラクターによる実演を見学して頂きます。(講習会は要望があれば企画したいと思います)

(看護次長 前田千保子)



看護フェアを開催します!!

5月10日(木)：病院1階フロア

5月11日(金)：イズミヤ千里丘店

5月12日は「看護の日」となっています。協和会病院では毎年看護フェアを開催しています。今年度も「看護の心をみんなの心に」というテーマで5月10日・11日に看護フェアを開催します。

10日は病院1階、11日はイズミヤ千里丘店で看護師による健康相談や血圧・体脂肪測定・骨密度測定、栄養士による栄養相談や薬剤師による服薬相談、リハビリの体操など健康を身近に感じてもらえるような様々な催しを企画しています。皆さんお気軽に参加してみてください。

(病棟課長 津村輝美)



お気軽にご参加下さい



協和会病院ご案内

- 医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号 (代)06-6339-3455
- 理事長 / 上田 邦彦
 - 院長 / 増田 公人
 - 開院年月日 / 1988年(S63)3月
 - 診療科目 / 内科、消化器科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科
 - 専門外来 / 泌尿器科(月曜日13:00~14:45) 神経内科(木曜日 9:00~11:30)
 - 診察時間 / 午前診 9:00~12:00(月~土曜日)
 - ※救急医療については、24時間お受けしております。

病院1階外来待合室をリニューアル



平成23年12月末に外来待合室をリニューアル致しました。限られたスペースではございますが、椅子の色や配置を変え、少しでも明るい広い空間で過ごして頂きたいと考えております。また、食事を取るスペースがすくなく、大変ご迷惑をお掛けしておりましたが、休憩室を設けました。絶食検査の飲食コーナーとして御利用下さい。(外来看護主任 北村清美)



病院理念

知・技・心

専門的な知識と技術の向上を図り心をこめて安心の医療を提供します

基本方針

1. 「患者様中心」を常に心がけ、満足な医療を提供します
1. 患者様の人権を尊重し、公平な医療を提供します
1. 急性期から慢性期まで、地域と連携した医療を提供します
1. チーム医療を推進し、質の高い医療を提供します
1. 人員・設備・環境を整え、安心で安全な医療を提供します

医療法人協和会 協和会病院 2012.4.1

一生懸命がんばります☆

看護部21名、パラメディカル15名。総勢36名の新人です。協和会病院の一員として、しっかり学び、知識や技術の向上に努めます!先輩方、宜しくお願いします!! (事務部 木村可奈子)



編集後記

新年度が始まり、桜の見頃もあつと言う間に過ぎ、大型連休、梅雨と季節の移り変わりは本当に早く訪れます。年2回発行している広報誌～なごみ～も初回発行からいつの間にか10年目を迎えました。

継続は力なりと言うことで、委員と共に内容を十分に検討して参りたいと考えております。次号の発行は11月頃を予定しております。(広報誌委員会) 放射線科 北村博司